

- 広島県重要文化財の指定について、御説明をさせていただきます。
- この度、広島県文化財保護審議会の答申を受けまして、本日開催されました教育委員会会議におきまして、1件の県重要文化財指定が決定されました。
- 詳細につきましては、こちらに掲示されております資料とともに、担当課から説明させます。

《以下、白井文化財課長が説明》

- 文化財課長の白井でございます。どうぞよろしくお願いたします。それでは、スライドも活用しながら御説明させていただきます。
- まず、広島県重要文化財の指定とは、広島県文化財保護条例第3条第1項の規定により、県の区域内にある有形の文化財、すわなち、建造物を始め、絵画や工芸品などのうち、本県にとって、歴史上又は芸術上の価値、あるいは学術的価値の高い、本県の歴史と文化を語る上で欠かせない文化財を特定し、保護しようとするものでございます。
- こちらが今回、広島県重要文化財に指定された常国寺唐門じょうこくじからもんでございます。
- 常国寺は福山市南部、沼隈半島の中心に位置し、沼隈と鞆を結ぶ古道に沿った、交通の要衝に建てられた日蓮宗の寺院です。安土桃山時代、織田信長に追われた室町幕府将軍、足利義昭が鞆に逃れてきた時、一時期滞在していたことで知られています。
- 境内は熊野貯水池の北向き斜面にあり、池の近くに山門が、斜面上部に本堂が配されています。今回指定された唐門は、この本堂と山門の間、本堂正面のテラスの前面に建てられた門です。
- こちらの常国寺唐門は、木造、本瓦葺きで、正面に唐破風からはふを配した向唐門むかいからもんと呼ばれる様式の門です。18世紀前期、江戸時代中期に建てられたと記録されております。
- 禅宗様の門で正面、かえるまた墓股に足利将軍家の家紋である二つ引き両紋を配し、足利義昭の由緒を伝えています。上部の笈形には彫刻が力強く施されております。
- 門扉には桐の文様が彫られており、足利将軍家との由緒を強調しております。
- 門の背面の頭貫かしらぬきとこれに直交する木鼻きばなも、雲形くもがたに仕上げられています。

- 以上、御説明したとおり、本件唐門は、足利義昭の由緒を、江戸時代、享保期の施主と大工が当時の知識と技術で建物の形式及び意匠で示したという特色を持つ建造物で、材質、技法及び意匠ともに優れていると言えることから、本県重要文化財に指定することがふさわしいと判断いたしました。

- 説明は以上でございます。